

富山市立学校 新型コロナウイルス感染症対策検討会議だより

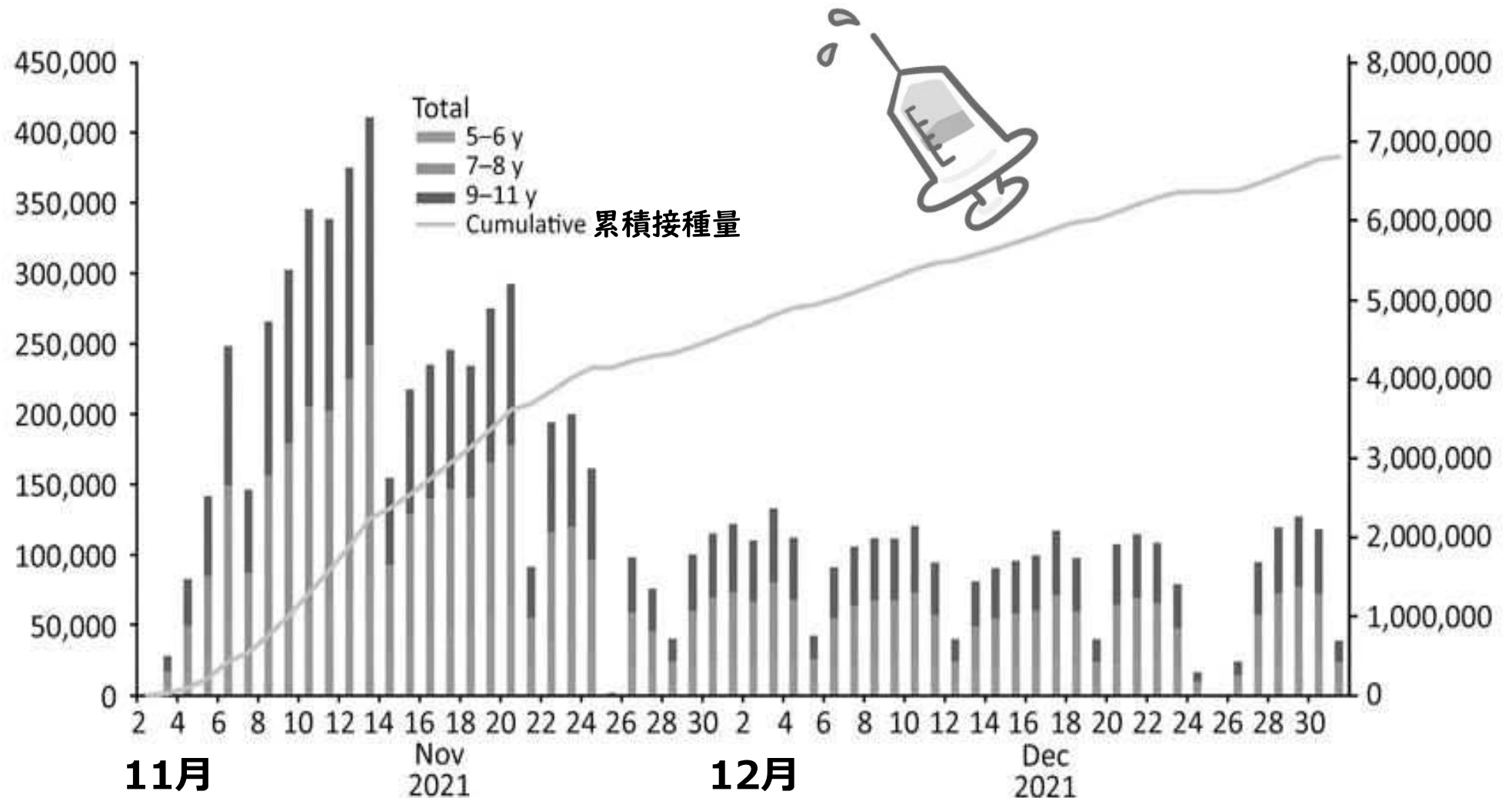
新たな感染症とともに ワクチンに関するQ&A

～詳細資料編～



補完資料

Q4 諸外国の小児の感染状況やワクチン接種状況を知りたい



米国における5～11歳のコロナワクチン接種状況の推移 (2022年3月現在 接種率 26.9%)

Q5 持病があるのですが、接種した方がよいでしょうか？

日本小児科学会が重症化しやすく接種を考慮すべき基礎疾患として挙げた疾患リスト

- ① 慢性呼吸器疾患（コントロール不良の難治性気管支喘息など）
- ② 慢性心疾患（治療中ないし運動制限を受けている先天性心疾患、心臓術後3か月以内、フォンタン術後、心移植待機中・心移植後、治療中の心筋症）
- ③ 慢性腎疾患（透析中、腎移植後）
- ④ 神経筋疾患（脳性麻痺、難治性てんかん、染色体異常、重症心身障害児、神経発達症）
- ⑤ 血液疾患（血液がん、原発性免疫不全、免疫抑制療法を受けている特発性血小板減少性紫斑病や溶血性貧血）
- ⑥ 糖尿病・代謝性疾患
- ⑦ 悪性疾患
- ⑧ 関節リウマチ・膠原病
- ⑨ 内分泌疾患（副腎機能不全、下垂体機能不全、甲状腺機能亢進症）
- ⑩ 消化器疾患・肝疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、胆道閉鎖術後、肝移植・小腸移植後、自己免疫性肝炎、原発性硬化性胆管炎、肝硬変、肝不全、短腸症）
- ⑪ 先天性免疫不全症候群、HIV感染症、治療や疾患に伴う免疫抑制状態
- ⑫ その他（高度肥満、早産児、医療的ケア児、施設入所や長期入院の児、極端にやせが進行した摂食障害）



その他の質問



Q 副反応が出た時は、学校には行くべき？

ワクチン接種後、発熱などの副反応があり、自宅で体調が回復するまで療養する場合は、欠席ではなく「出席停止」の取扱いとなります。

医療機関等でワクチン接種を受ける場合も、ワクチン接種に要する日は「出席停止」とします。

Q アレルギー児の接種リスクについて



多くの子どもたちが、喘息や花粉症、食物アレルギー、薬剤アレルギーなどを持っています。これらの病気を持っているお子さまでも多くの場合は問題なく、ワクチン接種ができます。慎重な対応をするため、アレルギーがあることを問診表に記載し、会場で申告すると良いでしょう。

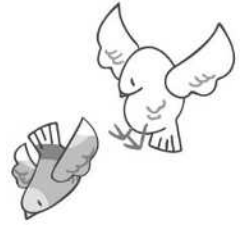
Q メッセンジャーRNA以外のワクチンを受けることは
できますか？



現在は国内ではファイザー、モデルナ、アストラゼネカの3社のワクチンが承認されています。その中で5-11歳に接種できるのは現時点ではファイザーのメッセンジャーRNAワクチンのみです。

これまでインフルエンザワクチンなどで実績のある組み換えタンパクワクチンという手法を用いたワクチンは、まだ国内で承認されたものはありません。ノババックスが承認申請中、塩野義製薬とサノフィが第3相試験中であり、数か月のうちに国内でも使用可能となるかもしれません。しかし、まずは成人で開始され、その後に子どもが打てるようになるので、子どもがメッセンジャーRNAワクチン以外を接種できるようになるのはしばらく先となる見込みです。

Q 新しいワクチンなので、将来への影響が気になります



ワクチンの副反応は、基本的に接種後2か月以内に出現します（生ワクチンを除く）。
接種されたメッセンジャーRNAは短期間のうちに分解され、理論上長期的な影響は起こりにくいとされます。

海外の大規模接種開始から1年以上経っており、これから未知の長期的な影響が現れる可能性は低いと考えられています。

もちろん、緊急承認薬剤であり、今後も長期的な副反応の評価は必要で、世界中で継続的に評価がなされていきます。

